

BBLセミナー コメント資料

2016年6月21日

「育児と介護を同時に担うダブルケアの
現状と課題」へのコメント

宇南山 卓

「育児と介護のダブルケア の実態に関する調査」 へのコメント

宇南山 卓

(一橋大学経済研究所)

なぜダブルケアが重要か？(1)

- ダブルケアになる確率が高い？
 - 子育てと介護の「リスク」が独立なら2つのリスクの積となる
 - 実際には、ダブルケアの割合はこの積より小さい
 - 「子育て世代」の介護リスクは小さいから？

ダブルケアの該当者の割合(0.2%)

<「子育て」の割合(9.0%)×「介護」の割合(5.0%)？

- ダブルケアには特有の対応が必要？
 - とくに言及なし
 - 子育て支援と介護支援の「ダブル給付」で十分？

なぜダブルケアが重要か？(2)

- ダブルケアになることで非線形に負担が増加？
 - もちろん、シングルケアよりは負担は大きい
 - ケア専従者がいれば追加的な負担は小さいのでは？
 - 女性のうち有業者の割合は「子育てのみ」と同程度
 - 男性に比べ、女性の「就業への影響」が大きい
 - ただし「子育てのみ」の女性との比較はしていない

なぜダブルケアになるのか

- 「子育て」は一定程度の自己選択
 - 「介護」はほぼ外生的なショック
- ⇒ 子育てをしている途中で介護ショックの発生？
- 問15を見ると、80-85%程度が子育てが先
- 介護ショックが発生したら出産を控える？
 - 晩婚・晩産が一般化した社会では少子化に拍車
- ⇒ 子育て世代の「介護ショック」にこそ対応が必要
- ＝ダブルケア予備軍への支援が必要
- 若年介護者の実態調査が必要

その他のコメント

- Webでの報告書が読みにくい
 - すべてPDF化されているが、複数ファイルになっている
 - 各ファイルのが章番号等だけで中身が分からない
 - 付表(1)と言われても何が書いてあるのか分からない
 - 主要な部分はhtmlにするか、単一ファイルにしてほしい